関東共晶会の最近の活動状況

共晶会関東支部では毎年11月から12月に支部総会を学士会館において開催しています。平成20年度は幹事会（幹事：太田氏）を10月14日の夕刻に学士会館地下にある名古屋大学会議室で開催し、総会は12月14日（火）11：00～14：00に開催し、特別講演は「JRCMにおける国家プロジェクト（環境問題を中心に）」のテーマで、JRCM（財団法人金属系材料研究開発センター）の主席研究員である城田良康氏（昭和47年３月、名大鉄鋼工学科修士課程修了）にお願いすることにしました。

支部総会には18名の同窓生が出席し、最初に今年のトピックスである「３人の名大関係者が栄えあるノーベル賞を受賞したこと、故井上先生の曽祖父大島高任氏が釜石の地で西洋式高炉による近代製鉄を立ち上げて150周年に当たること、米国の金融破綻による100年に一度の景気低迷に陥ったこと」等を交えた開会の挨拶がありました。その後、城田氏の講演に移り、JRCMの設立の経緯、組織と役割等の説明に引き続いて、以下のお話がありました。講演の後には熱心な質疑が行われ、有意義な一時を過ごしました。

１）経済産業省におけるエネルギーおよび環境関連の技術政策の概要、それに基づいて現在のＪＲＣＭが扱っている金属・鉄鋼関連の国家プロジェクトの概要の紹介

２）経済産業省製鉄企画室の「鉄鋼技術戦略マップ」に基づいて提案された鉄鋼業界と学協会との連携国家プロジェクト研究の推進

３）日本の鉄鋼業界および大学・国研の鉄鋼研究ポテンシャルの高さの維持・向上並びに基礎研究における協調と競争のバランスの最適化、国家プロジェクトの活用の推進

講演の後には懇親会に移り、和やかな雰囲気の中、楽しい一時を過ごしました。今回は長年関西支部におられた下山美明氏（昭和31年卒、元新日鉄）が初めて参加され、関西支部と関東支部の距離が縮まったように感じられました。懇談会では、各参加者が簡単な自己紹介および取り組んでいる仕事や社会活動を含めた近況を報告し、興味深い話には活発な質疑が行われ、時間が足りなくなる程でした。最後に記念撮影し、来年の再会を約して閉会となりました。残念であったのは今年も若い卒業生の参加が少なかったことです。次回は若手を含む多くの同窓生の参加を期待しています。

共晶会関東支部では支部総会の他に、入交前幹事が全学同窓会関東支部幹事会にも出席しており、名大ネットワーク作りや名大基金の募金と言った活動に参画しています。今後は共晶会の域を脱して全学活動にも積極的に関わり、名大の社会との連携強化にも貢献していきたいと考えています。

（共晶会関東支部長　竹之内朋夫）

平成20年度　共晶会関西支部活動報告

平成20年度におきましては、去る平成21年３月14日に毎年恒例となった共晶会関西支部総会及び懇親会が開催されました。今年度は野村名誉教授、長谷川教授をお迎えして、総勢22名の卒業生が集いました。

毎年、名誉教授と現役教授の先生方にはご自身の研究および大学の近況等を紹介していただいており、野村名誉教授におかれましては鋳造・凝固プロセスのこれまでの発展と、今後、実プロセス化が期待できる半凝固プロセスの展望についてお話を伺いました。現在は東海職業能力開発大学校にて未来を拓く技能を持った若人たちの育成にご尽力されており、ご退官後も益々ご活躍されております。

また、長谷川教授におかれましては、キャンパス周辺の様子から研究室の移転および構成、それからノーベル賞受賞者の紹介、先生の研究テーマである高圧力プロセスについて等、次世代への変貌を着実に遂げている大学の状況を紹介していただきました。

出席者の近況報告では時勢柄，不況を嘆くコメントが多かったものの、「今こそ名大ＯＢの力を示す時だ！」との力強い言葉もあり、共晶会をもっともっと盛り上げていこうという雰囲気の中、締めくくりは毎年恒例の「伊吹おろし」の熱唱で懇親会は終了しました。

本会は、さまざまな業種で活躍している幅広い年代が集っておりますが、みな気軽に打ち解けられる雰囲気であるのが良いところであり、大学時代の懐古や、人脈形成に大変有効な会です。若年層出席率が低いという気がかりはありますが、年を追う毎に徐々にではありますが増加してきております。来年度以降も、当会がますます盛り上がることを期待して止みません。

平成21年度におきましても平成22年３月の第２土曜に開催を予定しております。皆様のあたたかいご支援・ご参加よろしくお願い致します。

（共晶会関西支部幹事　植木俊行）

野村名誉教授による「鋳造・凝固の研究」についてのご講演

集合写真